

プロゼミナールの目次（平成29年度以前入学生用）

経済学科

藤井 ……	1	大野 ……	2	横山 ……	3	沖 ……	4
星野 ……	5	藤原 ……	6				

経営システム学科

井上(善) ……	7	朴(鏡) ……	8	安井 ……	9	古川 ……	10
朴(恩) ……	11	宮脇 ……	12	繁本 ……	13	松岡 ……	15
向 ……	16	嘉本 ……	17	趙 ……	18	張 ……	19
大杉 ……	20						

地域社会システム学科

大賀 ……	21	高橋(明) ……	22	水野 ……	23	西成 ……	24
高橋(昂) ……	26						

ナンバリングコード B4ECN-bcxE-30-Eb2 授業科目名 (時間割コード: 313516) プロゼミナール (藤井) Pre-Seminar マクロ経済学入門	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応30
	授業形態 Eb	単位数 2	
担当教員名 藤井 宏史	関連授業科目	金融政策 I・II	
	履修推奨科目	マクロ経済学 I・II	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<p>授業の概要 マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで、現代の様々な経済現象を分析するうえで必須の学問です。それゆえ本学では、「マクロ経済学 I・II」が学問基礎科目として開講されています。本授業は、2年次開講の「マクロ経済学 I・II」についていけない学生や更に理解を深めたい学生を対象にしています。ゼミ形式で授業を行いますので、受講生の前で報告し、質疑に応じることで理解が不十分な点を知ることができるとともに、授業でつまづいたところや確認したいところを自由に質問することができますので、理解が深まります。</p>			
<p>授業の目的 本授業は、日本経済を分析するための最低限のマクロ経済学の知識を習得する（知識・理解）ことと、それをもとに現実の経済動向に関心を持ち、マクロ経済の課題と処方箋について自分なりの見解をもつ（問題解決・課題探求能力）ことをめざします。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学の特徴が説明できる。 ・代表的なマクロ経済指標について、定義や特徴が説明できる。 ・総需要の構成要素と構成要素の決定因が説明できる。 ・名目GDPの決定要因と決定メカニズムが説明できる。 ・物価水準と実質GDPの決定要因と決定メカニズムが説明できる。 ・マクロ経済政策の効果と限界について説明できる。 			
<p>成績評価の方法と基準 報告 (約30%)、討論 (約20%)、小テスト (約20%)、最終レポート (約30%) をもとに判定します。詳細は、初回授業で説明します。</p>			
<p>授業計画並びに授業及び学習の方法</p> <p>【授業の計画】 教科書の内容にしたがって以下の計画で進める予定です。</p> <p>第1回 マクロ経済学の考え方 第2回 GDPの定義と「三面等価の原則」 第3回 物価と景気の指標 第4回 GDPの決定(1) 第5回 GDPの決定(2) 第6回 消費と投資 第7回 貨幣の需要と供給 第8回 IS-LM分析(1) 第9回 IS-LM分析(2) 第10回 マクロ経済政策の有効性 第11回 外国貿易とGDP 第12回 変動為替相場制下のマクロ経済政策 第13回 労働市場と総需要・総供給 第14回 物価水準と実質GDPの決定 第15回 インフレーションと失業</p> <p>【授業の方法】 受講生による報告と質疑・討論を中心としたゼミ形式で行います。報告者には、教科書の割り当てられた箇所を報告用レジュメにまとめ、それを使って説明してもらいます。その他の受講生は、事前に予習することを前提に、質問したり、討議に参加してもらいます。そのうえで授業の達成度を確認するために、何回か小テストを行うとともに、最終レポートを課す予定です。</p> <p>【学習の方法】 1. 予習・復習が必須です。 2. 日本経済の動向を示すマクロ経済指標に関心を持ち、新聞等でその動向をフォローするようにしてください。</p>			
<p>教科書・参考書等</p> <p>1. 教科書：鳴村紘輝・佐々木宏夫・横山将義・晝間文彦・横山信武・片岡孝夫『入門 マクロ経済学』中央経済社, 1999年. 2. 参考書：家森信善『マクロ経済学の基礎』中央経済社, 2017年. 中谷 巖『マクロ経済学入門 (第2版)』日経文庫, 2007年.</p>			
<p>オフィスアワー 火曜日4時限目</p>			
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 欠席する場合は、事前にメールで連絡してください。ただし、当日報告者の欠席は厳禁です。</p>			

ナンバリングコード B4STT-bcdE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 313505) プロゼミナール (大野) Pre-Seminar Excelによる統計データ分析	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 大野 拓行	関連授業科目	統計学入門、統計学、情報リテラシー	
	履修推奨科目	マクロ経済学、計量経済学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 1年生で学んだ統計学の知識をExcel実習を通じて深めるとともに、統計データを用いての統計分析の初歩を学びます。			
授業の目的 1. 統計学で学んだ知識を再確認する。 2. データを見る目を養う。 3. 統計分析手法のいくつかを習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 統計学の基礎知識を確実なものにする。 2. データに基づいた話しができるようになる。 3. 相関分析ができるようになる。			
成績評価の方法と基準 出席状況と、演習への参加態度などを見て総合的に判断します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) ガイダンス (2) 統計学の復習 1 (度数分布表とヒストグラム) (3) 統計学の復習 2 (平均の性質) (4) 統計学の復習 3 (分散、標準偏差、変動係数) (5) 統計学の復習 4 (正規分布と中心極限定理) (6) Excel VBA入門 (7) 統計学の復習 5 (推定と検定) (8) 相関分析 1 (共分散、相関係数) (9) 相関分析 2 (相関係数の有意性検定) (10) クロス集計表の分析 1 (ピボットテーブル) (11) クロス集計表の分析 2 (特化係数) (12) 独立性の検定 (13) 寄与度分析 (14) 経済成長の寄与度分析 (15) まとめ 【自学自習に関するアドバイス】 統計学で学んだ知識とマクロ経済学などで学んだ知識を結びつけることが重要です。			
教科書・参考書等 特に使用しない			
オフィスアワー 火曜日 4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席は厳禁です。			

ナンバリングコード B4STT-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313510) プロゼミナール (横山) Pre-Seminar excelを用いた統計分析の実際	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学入門、統計学、情報リテラシー	
	履修推奨科目	経済学概論、経済数学	
学習時間 授業 (講義および計算機実習を含む) 15回+自学自習			
授業の概要 3年生以降の授業に対応できるように、統計学、計算機や経済学などの基礎を学びます。どこにウェイトを置くかは学生と協議して決定します。統計学の理論的なお話とは異なり、実際のデータを用いた分析方法について計算機を用いての適用について考えます。ただし、受講生が少ない場合には、受講生に応じてExcelの使用法に関して重点を置く可能性があります。			
授業の目的 統計学は客観的に経済の事象等を把握し、将来の判断に役立てるには最適の学問です。座学として統計学を習った場合、実際にどのように利用するのか、どう役に立つのか疑問を持つかもしれません。この授業では、授業で学んだ知識を活かし、計算機も用いることで、統計学の実質的な活用について考えます。統計的な考え方は経済学部における様々な授業での分析を行う上での基礎部分に相当し、理論と共に、この授業で、計算機と併用し演習を行うことで、統計学の実際の適用に習熟すると共に、客観的な判断の下地を作ることができます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
計算機実習を用いた統計分析処理を学ぶことにより、理論的なことから現実の事象についての科学的対応ができるようになる。			
成績評価の方法と基準 普段の学習態度及び提出したレポートの評価。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 人数が少なければ計算機演習なども取り入れて授業を行います。 ひとまず統計学を中心にした場合の授業計画を示します。 第 1～ 2回 excelと統計学の基礎 第 3～ 4回 excelを用いてデータを分析する 第 5～ 7回 excelでのシミュレーション実験 第 8～10回 excelを用いた正規分布の表現 第11～13回 excelによる他の分布の表現 第14～15回 excelによる比較的高度な統計分析 計画は学生の理解度等を含めて調整するため、変更になる可能性があります。基本的には第1回目の授業において学生と協議して内容を絞ります。			
教科書・参考書等 第1回目に受講生に提示します。1回目は教員が用意した配布物で対応します。提示後、速やかに指示された教科書を購入してください。			
オフィスアワー 第1回目に説明します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席しないこと。発表等に当たった場合には責務を果たすこと。なお、提出物はmoodleで管理する予定です。期限内にレポートは提出すること。授業中許可なくスマホ等を使わないこと。			

ナンバリングコード B4ECN-abcE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313511) プロゼミナール (沖) Pre-Seminar 経済思想史入門	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 さまざまな経済学者や経済思想家の考えを通じて、経済や社会に対する多様な見方を理解する。			
授業の目的 文章作成、口頭発表に習熟するとともに、専門分野における問題の発見と分析、及び解決のプロセスを修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・学術的形式に則ったレジュメ・レポートを作成することができる。 ・論理的なディスカッションを行うことができる。 ・代表的な経済学者・経済思想家の理論・思想について、その概要を述べることができる。 			
成績評価の方法と基準 出席、授業での発表、討議への参加、レポートなどを考慮して、総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 『入門経済思想史 世俗の思想家たち』(R・L・ハイルブローナー著)を輪読形式で読み進めていく。参加者には、討議への積極的な参加が求められる。さらに、輪読したテキストを踏まえて、各自興味をもったテーマについて発表してもらう。そのうえで、発表に基づいたレポートを学期末までに仕上げる。 第1回 ガイダンス 第2回～第15回 発表と討議			
教科書・参考書等 R・L・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』(ちくま学芸文庫、2001年)、1500円(税別)。 オフィスアワー 初回時に指定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ゼミには受け身ではなく主体的な姿勢で取り組むこと。 なお、無断での遅刻・欠席は厳禁である。			

ナンバリングコード B4ECN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 313512) プロゼミナール (星野) Pre-Seminar 論理の基礎と活用	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経済に関わる現象や問題を大学で専門的に考えるために、論理的思考は不可欠です。そこでこの授業ではゼミ形式で、論理の意義、仕組み、そして使い方を学習します。経済、大学生活、地域社会などを素材にして論理的思考を表す例文(推論)の考案します。			
授業の目的 課題を発見し、探求するための論理的思考能力を身につける土台として、論理の基礎を知り、自ら活用できる力を養うことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・論理の意義や仕組みを説明できる。 ・論理の基礎を活用できる。 			
成績評価の方法と基準 参加態度・発言内容で60点、報告内容・期末レポートで40点、計100点満点で評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】授業は受講生による報告と質疑・討論を中心とするゼミ形式で行われます。受講生には出席だけでなく、毎回の事前準備と授業時間中の積極的な発言が求められます。 第1回 ガイダンス1 (自己紹介と担当決め) 第2回 ガイダンス2 (レジュメ作成) 第3回 主張相互間の関係 第4回 暗黙の前提 (1) 第5回 暗黙の前提 (2) 第6回 論理力トレーニング1 (「ならば」と「または」) 第7回 論理力トレーニング2 (「すべて」と「ある」) 第8回 論理力トレーニング3 (妥当性の証明) 第9回 論理力トレーニング4 第10回 推論と推測、演繹と帰納 (1) 第11回 推論と推測、演繹と帰納 (2) 第12回 知識成長・改善と論理 第13回 問題解決と論理 (1) 第14回 問題解決と論理 (2) 第15回 まとめ ※受講者人数や進行状況により、内容を一部変更・省略する場合があります。 【自学自習に関するアドバイス】 ・報告担当者は、テキストの担当範囲を箇条書き形式でまとめた説明資料を作成して、報告前日までファイルを提出します。そして後日、報告時の質疑・討論を参考に、説明資料を改訂して再提出します。 ・担当者以外のメンバーもテキストを予習して、自分の意見や疑問を整理しておきます。			
教科書・参考書等 以下の文献をテキストとします。受講生は生協で各自購入してください。 ・内田詔夫 (2012)『論理の基礎と活用』北樹出版。2000円+税。			
オフィスアワー 木曜日4時限目 (予定)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・無断欠席は厳禁です。 ・携帯電話など当面の授業と関係のない持ち物はカバンに入れて机の上に置かないこと。			

ナンバリングコード B4ECN-abcE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313520) プロゼミナール (藤原) Pre-Seminar The Economistの記事で学ぶ「国際経済」と「英語」	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 このプロゼミでは、今現在進行中の世界各国の経済問題を『The Economist』という英字新聞を教材にして学んでいく。この英字新聞は、イギリスで毎週発行され、世界の政治・経済問題を中心に扱い、全世界で読まれている。受講生はこの英字新聞のバックナンバーから興味のある国の興味のある経済問題について触れられた記事を選び、それを全員で読んでいく。			
授業の目的 ・時事英語の読解を通じて、世界各国で起こっている経済問題をリアルタイムで把握する。 ・世界各国の経済事情に触れることで、日本と世界の経済システムの共通点や相違点を見つける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・経済システムに対する理解を深める。 ・英語で時事問題を読むことに慣れる。 ・欧米の価値観に触れることで、日本の価値観を相対化する。			
成績評価の方法と基準 出席状況50%、受講態度30%、課題20% 特に、自分以外のメンバーの発言に対して積極的にコメントをする姿勢が求められる。 また課題レポートを提出しない場合は「放棄」と見なす。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業の方法 ①各人(注)が『The Economist』の記事の中から自分の好きな国(日本を含む)の経済に関する記事を選ぶ。 ②①で選んだ記事をメンバー全員分コピーして、各メンバーの担当箇所にアンダーラインを引き、配布する。 ③各メンバーは②の自分の担当箇所を事前に和訳しておき、ゼミの時間に英語で読んでから和訳した日本語を読み上げる。教員やその他のメンバーは、その内容に対して、英語の文法や経済学的な視点から補足することがあればコメントを行う。 ④1つの記事について①～③の作業が終わったら、次の記事について同じことを繰り返す。 ⑤最後に自分の選んだ記事を全訳したレポートを教員に提出し、教員はそれを添削する。 (①～⑤の作業を教員も学生に混じって同じように行う。) (注)受講生が10名を超えたときは、何人かの人たちに二人一組のグループになってもらい、グループ内で相談して1つの記事を選んでもらう。			
授業計画(予定) 第1回 ガイダンス 第2回～第15回 輪読			
学習の方法 英語が苦手な人は一から英文法などを学び直す覚悟が必要であり、電子辞書と高校の時に使っていた英語の参考書を近くに置いて、いつでもチェックできる体制を整えておく。授業では一文一文丁寧に読んでいくので、消化できる内容は限られている。そのためより広く深く学びたい人は、授業以外の時間に独力で興味のある記事を読んでほしい。			
教科書・参考書等 『The Economist』は毎週発行されており、経済研究所に順次配架される。また過去に発行されたものは中央図書館の書庫に所蔵されている。(香川県立図書館にも配架されている。)			
オフィスアワー 最初の授業で周知する			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 若い時に一回はこのプロゼミのように集中して時事英語を読む機会を持つておけば、将来自分が興味のある社会問題について日本以外のメディアの情報を生で得たいと思ったとき、役に立つと思われる。			

ナンバリングコード B4BSN-bcdE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323547) プロゼミナール (井上善) Pre-Seminar 財務諸表の読み方を学ぶ	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目 論	簿記入門 会計学総論	株式会社会計 監査
	履修推奨科目	簿記入門 会計学総論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 財務諸表から企業の状況(収益性・安全性・成長性等)を読みとれる能力を養う。			
授業の目的 財務諸表の構造と内容を知ることを通して企業の状況(収益性・安全性・成長性等)を読み取ることができるようになる(知識・理解)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
財務諸表の構造と内容を知ることを通して企業の状況(収益性・安全性・成長性等)を読み取ることができる。			
成績評価の方法と基準 プレゼンテーション・レポート・議論への参加の程度を総合的に勘案して成績を評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 ガイダンス 第2回～3回 損益計算書の話 第4回～5回 貸借対照表の話 第6回～7回 キャッシュ・フロー計算書の話 第8回～9回 収益性分析 第10回～11回 安全性分析 第12回～13回 成長性分析 第14回 問題演習 第15回 総括			
予習復習を怠らないこと。なお、受講生の理解度を考慮して授業計画をやむを得ず変更することがある。			
教科書・参考書等 佐伯良隆『2時間で決算書が読めるようになる(改訂版)』高橋書店, 2018年, 1,300円(購入必須)			
オフィスアワー 授業終了後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席厳禁。討論への積極的な参加が望まれる。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323550) プロゼミナール (朴鏡) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	簿記原理、会計学総論	
	履修推奨科目	管理会計論	
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
授業の概要 このゼミナールでは、会計情報から何が分かるのか、またどのように読み取ったらいいのかについて学びます。			
授業の目的 文章表現能力・口頭発表能力などのスキルを身につける (DPの「言語運用能力」に対応) とともに企業活動における会計情報の役割と機能を理解できること (DPの「知識・理解」に対応) を目的とします			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計の基礎知識を得ることができる。 2. 会計情報を用いた経営分析ができる。 3. 会計情報の役割について理解を深めることができる。			
成績評価の方法と基準 出席、事例研究報告 (または研究発表)、レポート等により評価します。 詳細については初回の授業で説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 少人数を対象にした授業であるため、講義のように担当教員が一方的に話すのではなく、教員と学生、又は学生同士が話し合いながらテキストを中心に授業を進めていきます。 【授業計画】 第1回イントロダクション 第2回会計情報の役割 第3回会計制度と社会 第4回会計の仕組み 第5回貸借対照表 第6回在庫の会計 第7回生産設備の会計 第8回金融資産の会計 第9回負債と資本の会計 第10回損益計算書 第11回営業活動の会計 第12回儲かる仕組みの分析 第13回利益の構造分析 第14回会計と経営管理 第15回全体まとめ 【自学自習について】 会計に関する予備知識は必要ではありませんが、授業の前にテキストの各章を事前に読んでおくことが必要です。また、各章の最後に課題を提示しますので課題に対して自らの考えをまとめて積極的に発言することが求められます。			
教科書・参考書等 谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社、2011年 (2,400円+税、生協にて購入可能)			
オフィスアワー 月曜日13時～14時の間、朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業計画は、授業の開始時点での予定であり、開始後の進捗状況により変更する場合があります。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323533) プロゼミナール (安井) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 3年次に履修する演習の予備段階として、企業と社会にかかわるテーマについてレポートの作成や口頭発表を行う。			
授業の目的 問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の育成を目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
専門分野の基礎に関わるレジユメないしレポートを書くことができる。 専門分野の初歩的なプレゼンテーションができる。 専門分野の初歩的な討論ができる。			
成績評価の方法と基準 出席状況, 発言, レポートの内容, グループ報告の内容			
授業計画並びに授業及び学習の方法 まず、指定された課題について担当者を決め、その担当者がレジユメを作成した上で報告する。担当者を含め、全員が前もって課題をレポートにまとめ、それをもとに討論を行う。 課題は現在のところ6回を予定しているが、参加人数により増減する。 課題を終了した後は、グループ毎にわかれ、それぞれが選んだ問題について調査・発表し、それに基づく討論を行う。 第1回 ガイダンスおよびグループの決定 第2～3回 第1回テーマに関する報告と討論 第4～5回 第2回テーマに関する報告と討論 第6～7回 第3回テーマに関する報告と討論 第8～9回 第4回テーマに関する報告と討論 第10～11回 第5回テーマに関する報告と討論 第12～13回 第6回テーマに関する報告と討論 第14～15回 グループによる報告と討論			
教科書・参考書等 教科書および最初の課題については、第一回のガイダンスにおいて指示する。 適宜、指示する。			
オフィスアワー 時間割が決定してから設定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 無断欠席および発表時の欠席は厳禁とする。 2. 毎回、必ず発言しなければならない。 3. 教育的効果を高めるために、授業計画を若干変更する場合がある。			

ナンバリングコード B4BSN-cadE-30-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 323555) プロゼミナール (古川) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論、商品システム論、商品実験		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、地域活性化に取り組む現場に実際に出向き、地元住民との交流を通じて、その地域に適した地域活性化のあり方について考えていきます。なお、この授業のフィールドについては、仏生山町（香川県高松市）を取り上げ、その活性化について考えます。			
授業の目的 ①フィールドワークを通じて、積極性と協調性を身につける。 ②フィールドワークを通じて、コミュニケーション能力を身につける。 ③フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力を身につける。 ④フィールドワークを通じて、問題の発見と分析、および解決のプロセスを身につける。 ⑤フィールドワークを通じて、地域活性化の現状と課題について、自分の考えをまとめる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①仲間と協力して積極的に活動できる。 ②地域の人たちや仲間と円滑にコミュニケーションできる。 ③地域の人たちや仲間の前でプレゼンテーションできる。 ④自ら問題を発見し、その解決方法を考えることができる。 ⑤地域活性化の現状と課題についてについて、自分の考えを述べるができる。			
成績評価の方法と基準 期末テストおよび小テストは行いません。計4回のフィールド調査およびその前後の検討・報告への出席状況により単位を認定します。成績評価については、検討・報告の内容と積極性をみて評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け 第02回：高松常磐町について事前調査および報告 第03～04回：第1回フィールド調査（於：仏生山町 時期：10月） 第05回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第06～07回：第2回フィールド調査（於：仏生山町 時期：11月） 第08回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第09～10回：第3回フィールド調査（於：仏生山町 時期：12月） 第11回：第3回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第12～13回：第4回フィールド調査（於：仏生山町 時期：1月） 第14回：第4回フィールド調査の報告 第15回：まとめ なお、この授業はフィールド調査を含むため、授業回数は教室で計7回、仏生山町で計4回を予定しています。なお、状況により、対象とするフィールドを変更する場合があります。 【授業方法】 フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。 参考書は随時指定します。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 仏生山町での活動は、場合により、土曜日・日曜日に行うことがあります。了承のうえ、受講してください。学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。			

ナンバリングコード B4BSN-abeE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323557) プロゼミナール (朴恩) Pre-Seminar 新聞記事で読む社会・経済 Reading the Society and economy in the newspaper	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2~2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	経済学、社会学	
	履修推奨科目	経済学、社会学	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 この授業では、新聞で取り上げられた社会や経済分野の出来事にふれていきます。国内外の主要新聞を中心に、最近の主要テーマを選んで学生みんなが読んできて、そのテーマに関する討論を行います。海外新聞の場合は事前の翻訳作業が必須です。後半はチームを組んでテーマを決め、プレゼンテーションを行います。			
授業の目的 この授業をとおして以下の可能性を考えています。 1. 社会や経済全般への知識習得ができる。 2. コミュニケーション、討論の能力を向上することができる。 3. プレゼンテーション能力を向上することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
社会や経済全般への知識を得ることができます。 自分の意見をまとめ相手を説得するプレゼンテーション能力、さらにさまざまなテーマの討論に参加することで、コミュニケーション能力と理解力を高めることができます。			
成績評価の方法と基準 授業準備20%、授業への参加・態度50%、プレゼンテーション30%。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業の方法 基本的には事前に学生たちに対象とする新聞記事を知らせます。学生たちはそれを各自プリントアウトして読むとともに、関連するテーマに関して調べてきます。皆で輪読後、そのテーマに関して討論を行い、レポートを作成してもらいます。これを何度か繰り返し、最終的には個人またはグループにわけてプレゼンテーションを行います。 授業計画 第1回 自己紹介とガイダンス 第2回~第5回 各学生による新聞記事輪読と討論 第6回 中間まとめ 第7回~第10回 各学生による新聞記事輪読と討論 第11回~第14回 チームでのプレゼンテーション 第15回 最終まとめ 【自学自習に関するアドバイス】 日ごろ英語の新聞に接することはあまりないと思います。ここでは、まず英語に触れることから始めましょう。そこから、単純に英語の問題ではなく、世界の政治、経済、社会に関して海外の主要メディアはどう伝えているのかをみてみましょう。さらに、日本の新聞からもニュースを読み取る力を身につけることができます。とにかく、欲張らずに授業準備として対象となった新聞記事だけでも毎日少しずつ読んでみてください。終わるころには英語はもちろん、社会全般への好奇心がわいてくると思います。これはまた、皆さんの大学での勉強にさまざまな形で役立つことでしょう。			
教科書・参考書等 関連新聞を事前に指定します(ネットで簡単にとれるものまたは配付)			
オフィスアワー 火13-14:30 研究室3号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語、遅刻、無断欠席など履修マナーを守ってください。 授業では毎回全員に必ず一回以上意見を求めることにしていますので、やる気を出して参加してください。			

ナンバリングコード B4BSN-bceE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323548) プロゼミナール (宮脇) Pre-Seminar 社会と私のフラクタル (自己相似) な 関係	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目		
	履修推奨科目 会計学・経営学関連の授業科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
授業の概要 このゼミナールの目標は、個人のコンピテンシー、特に、コミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力を高め、様々な「人間力」を成長させるきっかけ作りをすることです。			
授業の目的 「社会」と「自分自身」をフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーなどを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー (特にコミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力) を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
成績評価の方法と基準 (1)出席 (原則: 毎回)、積極的な参加態度 (2)個人のコンピテンシーの向上度			
授業計画並びに授業及び学習の方法 [授業の方法] まず、毎回、ストーリーテラーとして、各自の1週間の出来事の中から面白い話をしてもらい、表現力を高めます。次に、香川県をホームとするサッカーチームの「カマタマーレ讃岐」のボランティア活動に参加します。また、ボランティアの経験などをもとに、カマタマーレ讃岐とともに共同企画や提案を考え、それをプレゼンテーションします。最後に、「働く理由」をテーマにグループディスカッションします。 [授業計画 (予定)] (第1週) ガイダンス (第2週) 打ち合わせ会議 (カマタマーレ讃岐の関係者との打ち合わせ会議を体験します) (第3～6週) カマタマーレ讃岐のボランティア活動への参加 (日程調整をして日曜日に2～3回参加します (授業はお休みです)) (第7週～11週) プレゼンテーション (グループ別に企画や提案を考え、プレゼンテーションの準備を行い、実際にカマタマーレ讃岐の関係者・4年生・3年生とともにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を高めます。) (第12～14週) グループディスカッション (4年生・3年生も参加し、グループ別に、ディスカッションでの話し方、進め方などを学び、自己表現力を高めます。) (第15週) 360度ミーティング (私を含め、カマタマーレ讃岐の関係者、4年生・3年生から多角的にアドバイスをを行います。) [自主学習に関するアドバイス] (第2週) 事前にカマタマーレ讃岐のHPを見て調べたり、会議ではメモをしっかりとるようにしましょう。 (第3～6週) よりカマタマーレ讃岐の知識を増やすとともに、ボランティア活動を通して、いろいろな人と協働する体験を楽しみましょう。 (第7週～11週) グループ別に集まって、調べたり、資料を作成したりするなど、プレゼンテーションの準備をしましょう。 (第12～14週) テキストとディスカッションイシュー (問題) を配布するので、テキストを読み、ディスカッションイシューに答えられるように準備してきましょう。 (第15週) 今の自分がどのように見られているかを、しっかり聞いてみましょう。			
教科書・参考書等 随時指定			
オフィスアワー 水曜日15:30～17:00 (会議などでない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ まじめに授業や課題に取り組み、仲間と協働作業を行うことができること。			

ナンバリングコード B4BSN-bacE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード：323551) プロゼミナール(繁本) Pre-Seminar 会計知識の実践的活用：有価証券報告書の読み方を学ぶ	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目 簿記入門、会計学総論、財務会計論A、株式会社会計、監査論、経営学関連の科目		
	履修推奨科目 簿記入門、会計学総論、財務会計論A、株式会社会計、監査論、経営学関連の科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では、企業分析を行うための前段階として、上場企業の代表的な開示書類である有価証券報告書の読み方を学ぶ。具体的には、実際の有価証券報告書の記載内容について、テキストを参照しながら確認し、企業分析を行うためには開示情報をどのように利用すれば良いかを考えていく。なお、本授業が想定する企業分析は、あくまで会計学の視点に立つものである点を強調しておく。			
授業の目的 有価証券報告書の読み方を学び、企業分析を行うための予備知識を習得する(DPの「知識・理解」)。その上で、実際の有価証券報告書の中で、どのような企業情報がどのように開示されているか、さらにその開示情報をどのように利用できるかを考える(DPの「問題解決・課題探求能力」)。加えて、自分の調査結果や意見を、的確に分かりやすく伝える力を身に付ける(DPの「言語運用能力」)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 有価証券報告書の構成を説明できる。 2. 有価証券報告書の開示情報の種類を列挙できる。 3. 有価証券報告書の開示情報の意義を説明できる。 4. 有価証券報告書の開示情報を企業分析に利用できる。			
成績評価の方法と基準 報告の質、ディスカッションへの参加姿勢、ゼミ運営への貢献度、出席状況を総合的に評価する。高い成績評価を得るためには、積極的なディスカッション参加が特に不可欠である。なお、合理的な理由を事前に連絡しない欠席、遅刻、早退は、成績評価を著しく下げる。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、特定企業の有価証券報告書を用い、テキスト(受講生の状況を勘案して決定する)をガイドブック的に参照しながら読み方を学ぶ。具体的には、レポーター役の学生が、テキストの割当箇所について内容を要約すると同時に、実際の有価証券報告書における開示内容を報告する。その後、ゼミ生全員でディスカッションを行う。本授業は会計学の応用編であり、会計・ファイナンスに軸足を置いた企業分析の前段階として位置付けられることから、会計学に対する関心を持つ学生の受講を歓迎する。 ・また、本授業の内容はかなり実践的だが、実践的であればあるほど深く幅広い知識が必要であり(覚えることが多い)、様々な角度から頭を使うことが求められる(難しい)。これらを欠いた議論は「実践的」どころか茶飲み話と大差ない。これが、会計と金融の実務の中から得た、私の実感である。 <p>【授業計画】</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：様々な開示書類 第3回：有価証券報告書の構成 第4回～第8回：企業の概況～提出会社の状況(いわゆる有報の前半部分) 第9回～第13回：経理の状況(つまり財務諸表) 第14回～第15回：ケース分析</p> <p>上記の計画は実際の進捗に応じて変更することがあり得る。</p> <p>【自学自習のアドバイス】</p> <p>本授業では、2年次前期の会計学総論で学んだ会計の知識を活用するので、一通り復習しておいて欲しい。加えて、企業活動に関わる幅広い知識(例えばコーポレート・ガバナンス、組織、戦略、会社法)も必要であるので、日頃から新聞や経済雑誌を読むなどして、企業を巡る様々な話題に関心を持って欲しい。</p>			
教科書・参考書等			
<p>【テキスト】</p> <p>受講生の状況を勘案して授業開始までに指定する。 このほか、実際の有価証券報告書のコピーを配布して用いる。 参考書は随時紹介する。</p>			

オフィスアワー

初回授業時に指定する。ただし、指定時間以外でも、事前連絡があれば随時学習指導に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習形式の授業では、毎回の出席は当然の前提とした上で、受講生の積極的かつ能動的な学習姿勢が不可欠である。授業のレベルは受講生の学習姿勢次第で決まるといっても過言ではない。受講生には十分な事前準備と積極的なディスカッション参加が求められる。また、授業中の私語やスマホ等の使用をはじめ、他人の勉学の権利を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処する。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323540) プロゼミナール (松岡) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営学入門、経営組織論A/B、経営戦略論A/B	
	履修推奨科目	経営組織論A/B、経営戦略論A/B	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 この授業では、ゼミナール形式で、現実のビジネスを取り巻く諸課題について、これまでに学んだ経営学諸領域の理論・知識を用いながら検討する。今年度は地域企業の事業創造をテーマとしてとりあげる。			
授業の目的 ゼミナール形式での討議を通して、地域企業の事業創造についての理解と洞察を深める。また、グループ単位で課題を設定し、調査と分析を行い、それらについての報告を行う。これらの活動を通して、問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の向上を目指す(学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
専門分野の基礎に関わるレジユメないしレポートを書くことができる。 専門分野の初歩的なプレゼンテーションができる。 専門分野の初歩的な討論ができる。			
成績評価の方法と基準 受講態度、討議への貢献度、課題レポート、調査プロジェクトの進捗状況等に基づいて総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【講義計画】 1. イントロダクション 2～8. 報告者によるプレゼンテーションと全体での質疑 9～14. 調査研究の実施と進捗報告 15. まとめ 【自学自習に関して】 テキスト、資料を精読してから出席してください。また調査プロジェクトの開始後はチームメンバーで協議し、データの収集・分析、報告書類の作成にあたってください。			
教科書・参考書等 山田幸三・忽那憲治 (2016)『地域創生イノベーション—企業家精神で地域の活性化に挑む』中央経済社 (2700円/生協で販売)			
オフィスアワー 火曜日・4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断遅刻・欠席は厳禁。 事前準備を入念に行い、質の高い討論を行い、有意義なゼミ運営を目指しましょう。 演習活動の一環として、学外での調査活動等を伴う場合があるため、保険(学研災・学研賠あるいは同等のもの)加入をしておくことが受講の条件となります。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323560) プロゼミナール (向) Pre-Seminar Professional Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	経営学入門、経営戦略論A、経営組織論A、人的資源管理論A、マーケティング論A	
	履修推奨科目	経営戦略論B、経営組織論B、マーケティング論B、人的資源管理論B	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 このプロゼミナールは、受講生の主体性を重視した形で運営していきたい。受講生は経営システム学科の授業で学んだ経営学の基礎知識を用いて、企業や産業の動向を考察し理解する。また自らの問題関心に沿って、主体的に学習・研究を行う。			
授業の目的 企業・産業に関わるテーマの調査・研究や、レポートの執筆、発表&議論などを通じて、受講生に経営学の面白さと知的刺激を味わってもらいながら、皆さんの問題発見・問題解決能力、論理的思考力、文章表現能力および口頭発表能力を育成していきたい。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・企業や産業の動向に対する感受性と理解力が高まる。 ・自らの問題関心に沿って、企業や産業の動向を分析することができる。 ・経営学の知識や理論を用いながら、企業・産業分析のレジユメないしレポートを書いたり、口頭で説明・発表したり、他人と討論したりすることができる。 			
成績評価の方法と基準 グループ研究の内容が60%、出席状況と議論への参加が30%、プロゼミ運営への貢献度が10%を目安にして、総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回： イントロダクション 第2回： 研究方法論に関するレクチャー 第3回： 論理的思考に関するレクチャー 第4～15回 グループ研究&発表&議論 (注：1回分の授業をキャリア支援センターの教員による講演会で置き換える。)			
具体的な進め方は以下の通りである。 ①グループ分けをし、各グループは研究テーマを決めて、共同調査・研究を行う。 ②各グループは研究成果を纏める。 ③パワーポイントを作成して、研究成果を発表する。 ④受講生全員でディスカッション・質疑応答を行う。 *進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。			
教科書・参考書等 講義の際に適宜紹介する。			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 皆さんが積極的に授業にコミットすることを期待します。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323559) プロゼミナール (嘉本) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 嘉本 慎介	関連授業科目	経営財務論	
	履修推奨科目		
学習時間 授業時間 90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、証券投資や経営財務に関する問題を分析するファイナンス理論を学習する上で必須となる「お金の時間価値」についてその概念と評価法を学習してもらう。そして、それらを踏まえて債券の価格評価に関する基礎理論を学習してもらう。 ファイナンス理論に関するテキストを指定して報告箇所を受講者に割り当てるので、割り当てられた箇所の内容をまとめた資料を作成し、それについて詳しく報告してもらう形式で授業を行う。報告者以外の受講者にも発言を求めないので、授業前までにテキストを読むなどの予習をを求める。さらに、学習した内容に関する理解を深めるため、定期的に宿題に取り組んでもらう。			
授業の目的 問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の育成を目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
専門分野の基礎に関わるレジユメないしレポートを書くことができる。 専門分野の初歩的なプレゼンテーションができる。 専門分野の初歩的な討論ができる			
成績評価の方法と基準 試験・課題レポート・授業への取り組み態度で評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回目の授業でファイナンス理論に関するテキストをこちらで指定するので、受講生にそのテキストの割り当てられた箇所についてあらかじめ資料を作成して授業中に詳しく報告してもらう形式で授業を進めていく。 第1回目 債券の特徴と国債の発行市場に関する講義 第2回目～第14回目 プレゼンテーション 第15回目 試験 ただし、授業の進行状況や受講生の理解度に応じて、こちらで補足説明や内容の解説を行う授業を設けることがある。			
教科書・参考書等 参考書 『現代ファイナンス理論入門 第2版』 仁科一彦 (著) 『コーポレートファイナンスの原理第9版』 大野薫 (訳) 『コーポレートファイナンス入門編第2版』 久保田敬一他 (訳) 『コーポレートファイナンス第10版 (上)・(下)』 藤井真理子・国枝繁樹 (訳)			
オフィスアワー 木曜日 18:00～19:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この授業は、受講者の積極的な参加のもとで成り立つ授業である。したがって、報告者以外の受講生も毎回、講義前までにテキストを読むなどの予習と授業への積極的な発言などによる参加が求められる。受講生には、自分の意思で受講を願いでて演習に参加していることを自覚することを求める。 また、無断欠席・遅刻・授業中の迷惑行為等には厳しく対処する。			

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード：323561) プロゼミナール (趙) Pre-Seminar 商品企画を学ぶ	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
授業の概要 商品企画に興味はあるが、よくわからない。商品企画を学んだが、手法や理論まではうまく説明できない。そういったはじめて商品企画を学ぶ学生のための演習である。商品企画が実際どのよなプロセスで行われているのか、そして商品企画をうまくやるために、理論や手法がどのように役立つのかを学ぶ。そして実際学生がグループワークを通じて商品企画書を作成してみる。			
授業の目的 商品企画プロセスを通じて、市場調査、商品コンセプト、販促、価格、チャネルなどのマーケティングの基本的な理論を身につけることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 商品企画やプロセスが理解できる。 2. 多様な市場調査の手法や理論が数多く理解できる。 3. 商品企画プロセスに関連づけて、マーケティングが理解できる。 4. 商品企画の実践的な進め方が理解できる。			
成績評価の方法と基準 出席状況、報告内容、議論における積極性、グループワークへの取り組みなどの状況に基づいて総合的に評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 イン트로ダクション 第2回 ①商品企画プロセス、②インタビュー法 第3回 ③観察法、④リード・ユーザー法 第4回 ⑤アイデア創出、⑥コンセプト開発 第5回 ⑦プロトタイピング、⑧市場規模の確認 第6回 ⑨競合・技術の確認、⑩顧客ニーズの確認 第7回 ⑪販促提案、⑫価格提案 第8回 ⑬チャネル提案、⑭企画書作成 第9回 ⑮プレゼンテーション 第10回～15回 商品企画作成 毎回パワーポイントによる発表を行う。			
教科書・参考書等 西川英彦・廣田章光編著 (2012) 『1からの商品企画』 碩学舎。			
オフィスアワー 随時、研究室にて受け付けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講のマナー (私語、遅刻、無断欠席) を守ること グループワーク、報告、討論などに積極的に取り組むこと。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323565) プロゼミナール(張) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経営史、経済史、現代企業論	
	履修推奨科目	経営史、経済史、現代企業論	
学習時間 授業時間90分×15回+自学自習			
授業の概要 この授業では、ゼミナール形式を用いて、企業の経営現象を歴史的な視点を用いて検討する。またグループワークを行い、課題探求能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。			
授業の目的 この授業の目的は以下の通りである。 ・文献を輪読し、経営史的なアプローチによる企業理解を深める。 ・グループワークを通じて、グループでの問題解決能力とプレゼンテーション能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・経営史に関わる基礎的な知識、理論を修得できる。 ・チームワークで研究課題を解決することができる。 			
成績評価の方法と基準 輪読、グループ研究への貢献度、課題レポートに基づいて総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション：授業に関する説明と課題設定 第2～6回 文献の輪読 第7回 グループワーク：ディスカッション・テーマ設定 第8～14回 グループワーク：グループテーマへの取組・ディスカッション 第15回 グループワーク：プレゼンテーション・ディスカッション 第15回目終了後、1週間以内に、課題レポートの提出			
教科書・参考書等 教科書の指定はなし。 参考書：受講生と相談して決める。			
オフィスアワー 火曜日の3時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ グループワークをスムーズに展開するために、①事前準備を入念に行う必要がある、②無断遅刻・欠席はしないこと。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323563) プロゼミナール (大杉) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 大杉 奉代	関連授業科目	経営戦略論A・B, 経営組織論A・B	
	履修推奨科目	経営戦略論A・B, 経営組織論A・B	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 企業にかかわるテーマについての探求能力, 課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力) を身につけるための講義を行う。			
授業の目的 本講義は, 企業を取り巻く経営環境, 企業の経営戦略についての分析・評価を行い, プレゼンテーションを行うことにより戦略的思考力を鍛えることを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の目標は3つあります。 ①企業に関する分析ができる。 ②企業に関する考察ができる。 ③それを口頭にて発表することができる。			
成績評価の方法と基準 平常点 (学習態度・発言内容などを含む30%), レポート (30%) および報告内容 (40%) を総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回: イントロダクション ～講義概要及び本講義の位置づけ～ 第2～7回: 個人または, グループの研究テーマに関する統計調査・分析または, ケーススタディと発表, ディスカッション 第8～15回: 個人または, グループの研究テーマに関する研究内容の考察と発表, ディスカッション			
自学自習に関するアドバイス: 予習に関しては, 研究テーマに関する統計調査・分析または, 研究内容の考察と発表を行うので各自準備を行うこと。 復習に関しては, 発表, ディスカッションについてレポートにまとめること。			
教科書・参考書等 講義の際に適宜紹介する。			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 進行状況に応じて授業計画を変更することがある。私語など, 他の受講者の迷惑になるような行為は慎むこと。			

ナンバリングコード B4GE0-bceE-30-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 333477) プロゼミナール (大賀) Pre-Seminar 瀬戸内海観光の構想	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 大賀 睦夫	関連授業科目	観光と政治	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 『香川県の歴史』の輪読、『二十四の瞳』などの映画鑑賞、香川県歴史博物館見学などを通して、瀬戸内海の魅力について学ぶ。そのうえで、瀬戸内海の魅力を活かした観光の可能性について考える。			
授業の目的 大交流の時代といわれています。外国のことを知ると同時に、自分の住む地域の魅力についても語れる人間になりましょう。この授業では、香川県、瀬戸内圏の歴史を学び、地域の魅力をいかに観光につなげていくことができるか考えます。現在でも、外国人の目には、日本は巨大な「ブラックホール」と映っているので、情報発信型の人間になりましょう。そこを授業の目的にしています。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・香川県の魅力について語るができる。 ・瀬戸内海を活かした観光のアイデアをもっている。 ・情報発信型人間になれる。 			
成績評価の方法と基準 口頭発表25%、レポート作成75%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>テキストの輪読、瀬戸内海を舞台にした映画鑑賞、歴史博物館見学などを通して得られた知識を基礎に、瀬戸内の魅力について討論する。授業の最後に、各自「私の瀬戸内海案内」と題したレポートを作成し発表する。</p> <p>第1～3回 テキスト輪読 第4回 歴史博物館見学 第5回 テキスト輪読 第6回 映画『二十四の瞳』研究 第7～9回 テキスト輪読 第10回 古地図で歩く香川の歴史 第11～14回 テキスト輪読 第15回 レポート「私の瀬戸内海案内」発表</p>			
教科書・参考書等 教科書として次の書物を使います。生協で購入してください。 木原溥幸他『香川県の歴史』山川出版社、1997年、2400円			
オフィスアワー 月5			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 「現場」に出かけて調べることを宿題にすることもあります。授業に意欲的に取り組む人のみ履修してください。			

ナンバリングコード B4SCL-cbaE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 333479) プロゼミナール (高橋(明)) Pre-Seminar 複数の目で社会を考えるー『台湾論』を 巡る議論	科目区分	時間割 後期木5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目 中国文化論、アジア社会論、ヨーロッパ社会論、 アメリカ社会論、ヨーロッパ文化論 履修推奨科目		
学習時間 ゼミ90分×15回+自学自習			
授業の概要 『台湾論』をめぐる論議を足掛かりに、日本と台湾、日本とアジア、世界の中のアジアといった問題を考えます。			
授業の目的 国、地域、社会はそれぞれ成立の過程があり、それらをどう評価するかは立場によって大きく異なることが少なくありません。私たちに要求されるのは、情報を理解するに当たり、その情報・評価がどの立場から何によって示されているかを視野に入れて判断する力です。 この授業では、出版後内外で様々な議論を引き起こした書籍を輪読しながら、見方の違いがどのように生じるかを示してもらいます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1 立場の異なった意見の対立点を整理したうえで問題点が指摘できる。 2 20世紀以降の東アジア(特に中国・台湾をメインとする)の歴史解釈について説明できる。 3 1の手法で、自分が関心を持つ国や地域について、問題点を見つけることができる。			
成績評価の方法と基準 授業での作業・ディスカッションへの参加35%、資料の収集・読み込みと発表資料作成35%、期末レポートの作成30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 インTRODクシヨンと担当テーマの決定 第2回 資料の種類、調査、処理など研究方法に関するガイダンス 第3回～第14回 テキストについて担当者の説明、それにもとづくディスカッション。なお司会役も輪番で受 講生が担当します			
【自学自習の方法】 発表担当者 1 テキストの内容を整理する 2 参考資料を合わせて用意する。何をを用意するかは、回の内容によりより変わりますが 第1回に配布するリストなどを参考にして、必ずテキスト以外の資料も当たってくださ い。 3 著者の考えについて、評価できる点と問題を感じる点双方を提示できるように考える。 4 1～3に従って、A41～2枚程度の資料を受講人数+教員分用意する			
司会担当者 1 担当回の内容を十分読んで理解してください。 2 必要であれば、発表者と進行を相談してください 上記以外 1 次回授業で扱う部分について、予め読んだ上で、著者の見方について、予め自分の考え を述べられるよ うにまとめておくとともに、質問で明らかにしたい点についても整理し ておく。 **簡単に調べられる情報(例えば、台湾に幾つ県がありますか、とか日本統治時代は何年 からですかなど) は発表者に頼らず、自分でチェックしておくこと *受講者数、教室設備によって進行方法が一部変更されることがあります			
教科書・参考書等 小林よしのり『ゴーマニズム宣言 台湾論』(小学館) 大判、文庫版など古書でも入手可能ですので、第1回授業までに各自入手してください 参考書については、1回目の授業でリストを渡します			
オフィスアワー 月曜5時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席をしないこと。 当該授業内容に関して、近県での学外での見学を1回課す予定です。(授業時間を利用するのではなく、土日や冬休 みなどを利用して個人で行ってもらいます) 自分の担当でない回も、その範囲について予習し、質問できるようにして望んでください テキストは日本語で書かれているので、中国語を履修していなくても支障ありません			

ナンバリングコード B4SCL-abcE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 333485) プロゼミナール (水野) Pre-Seminar アメリカ合衆国の政治と経済	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目 (英語)	異文化間コミュニケーション論, 外国語演習	
	履修推奨科目	アメリカ社会論	
学習時間 講義90分 x 15回 + 自学自習			
授業の概要 現代アメリカの政治と経済について学びます。与えられたテーマについて、グループで調査したことを発表し、ディスカッションを行います。最終的に、各自のゼミレポートをまとめて報告書を作成します。			
授業の目的 グローバルコミュニティの形成に大きな影響を持ち続けているアメリカ合衆国について学ぶことにより、国際社会の動きを理解するための知識を身に着ける。また、時事英語の学習を通して、英語コミュニケーション力の育成をめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの政治・経済について学んだ知識をアメリカ国内外の社会情勢の理解につなげることができる。 ・アメリカ社会および国際社会についての読解力を中心に、英語コミュニケーション能力を高める。 			
成績評価の方法と基準 授業内のテーマ発表、討論の内容 (70%)、および期末レポート (30%) による。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>授業は演習形式で、学生の発表と討論を中心に進めていく。</p> <p>第1回…ガイダンス</p> <p>第2～5回…アメリカ社会についてのテーマ別発表 (歴史、政治、経済、民族、宗教などから複数のテーマを設定する)</p> <p>第6回～12回…アメリカの時事問題 (テレビニュースや新聞記事などからトピックを選択し、調査、報告および討論を行う)</p> <p>第13回～第15回…最終レポートに向けての調査およびプレゼン</p>			
教科書・参考書等 参考書については、授業内で適宜指示する。			
オフィスアワー 木曜3校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 英語および現代アメリカ社会に興味関心の高い学生の受講を期待します。			

ナンバリングコード B4GE0-cdeE-30-Eb2 授業科目名 (時間割コード: 333492) プロゼミナール (西成) Pre-Seminar まちづくり・デザイン入門	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eb	単位数 2	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	まちづくり論、瀬戸内地域活性化プロジェクト	
	履修推奨科目	まちづくり論、瀬戸内地域活性化プロジェクト	
学習時間 ゼミ90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 プロゼミでは、少し先の未来のこと、次の社会で求められている「暮らし方」「コミュニティ」に焦点を当て、皆で議論し、体験し、研究をしていきます。 現在、日本は人口減少社会に突入し、これまでのような人口増加を前提とした社会システムが立ち行かなくなっています。これからは人口減少・人口停滞の社会を前提とした社会システムへの変更が余儀なくされており、現在はその移行期といえます。 プロゼミでは、こうした移行期にある人々の価値観（豊かさ）の変化に着目します。いま、地域づくり・まちづくりの現場に立っていると、これまでの規模拡大社会の「豊かさ」とは異なる、新しい感覚の「豊かさ」が求められていることに気が付きます。そうした価値観の変化の萌芽を読み取り、持続可能な地域社会の仕組みづくりについて考えていきます。			
授業の目的 ①プレゼン・ディスカッション能力を身につける 就職活動では、「他人に伝える」「他人と議論する」能力が試されます。現場でのプロジェクト経験を通じて、社会人に求められる「コミュニケーション能力」を鍛えます。 ②地域の問題解決に向けて「企画力」を身につける 公務員であっても民間企業であっても、学生自身がどんな活動にどのように取り組んだのかが問われます。地域の活性化や環境保全に関わる仕事に就くためには、現場での経験に裏打ちされた創造性（クリエイティビティ）が必要です。まずは現場を知る“気づき”から始めましょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①人前で論理的かつ直感的にプレゼンテーションができる ②グループで円滑にディスカッションができる ③まちづくり分野の基礎的な知識を習得できる			
成績評価の方法と基準 ゼミへの参加度（意欲・主体性）と成果物の充実度により評価します。 無断での遅刻、欠席は減点対象。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業形式】 ①反転授業（学生がテキストをもとに講義） ②グループディスカッション ③フリーレクチャー（学生が講義内容を企画する形式） ※プロゼミで使用するテキスト（文献）は自費で購入すること（1000円程度） 【ゼミ内容】 集まった学生メンバーの個性でゼミ内容は変えていきたいと思います。 ここには、主に昨年までにやった内容を記します。 ①反転授業 学生をチーム分けし、テキストの章ごとに担当チームを決定。 学生は各週ごとにテキストを熟読し、担当となるチームメンバーは講師役となって講義を行います。 学生の理解力を深めるためにはどうすればいいのか、それぞれのチームごとに工夫をこらします。 ②グループディスカッション 求められていることはテストで解答するための知識をつけることではなく、他の人に自分の考えを述べたり、他の人の意見を受けて、当初は思いもつかなかったアイデアを提案できる能力です。 そのためには、ディスカッションをする訓練が必要です。			

③フリーレクチャー

集まった学生達で共通する興味関心や問題意識を抽出します。

そのうえで、プロゼミをどんなカリキュラムにするのか、クリエイティブな発想で考えていきます。

これまでに、「名刺作成ワークショップ」「地域食プレゼン大会」「情報発信デザインコンペ」を実施しました。

第1回 ガイダンスと自己紹介

第2～14回 PBL（プロジェクトベースドラーニング）形式のゼミ

第15回 まとめ

各プロジェクトで必要となる文献や情報を各自で自学自習する必要があります。

教科書・参考書等

ゼミのなかで適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜13時～14時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修者は必ずカメラ（デジカメ等）を準備してください。

ナンバリングコード B4GE0-eacE-30-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 333497) プロゼミナール(高橋(昂)) Pre-Seminar 地域調査入門 Introduction to Field Research	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 eacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ef	単位数2	
担当教員名 高橋 昂輝	関連授業科目	(特) 地域研究論、地理学B、地域調査法	
	履修推奨科目	(特) 地域研究論、地理学B、地域調査法	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、人文地理学の枠組みを基本として、野外調査の方法、およびアカデミックライティング(学術的文章の書き方)の技法について指導する。人文地理学は、人間の活動に注目して空間や地域を考察する学問分野であり、そのなかには、農村を対象とする農村地理学、地域の文化を取り上げる文化地理学、社会的現象に焦点を当てる社会地理学などがある。 初回の授業において、3～5人を目安にグループ分けをおこなう。2回目以降の授業では、文献講読・調査地域についての資料収集など、野外調査のための準備作業に取り組んでもらう。11～12月においては、島嶼(離島)地域において、野外調査を2回(または、1泊2日で1回)実施する。その後、現地調査により得られたデータの図表化、原稿の執筆をおこない、報告書を完成させる。			
授業の目的 本授業は、地理学的な野外調査(フィールドワーク)の手法、地図化・表化の基礎的技能を身に付けるとともに、アカデミックライティングの能力を養うことにより、地域を読み解き、説明・考察するための総合的な技能を習得することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地図上において特定の地点を特定し、その地理的特徴を説明できる。 2. 野外調査により、一次データ(オリジナルなデータ)を入手することができる。 3. 収集されたデータを地図化・表化することができる。 4. 学術的な文章表現を用いて、地域を説明・考察することができる。			
成績評価の方法と基準 ・授業参画度: 50% ・課題(報告書など): 50% ※但し、フィールドワーク2回両方への参加、および全授業回数の80%以上の出席を単位取得の要件とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回:「イントロダクション」 ・授業の進め方 ・グループ分け 第2～5回:「調査準備」 ・文献講読 ・調査地域と調査テーマに関する情報収集 ・現地調査の計画作成 [野外調査] 香川県内の島嶼地域において、野外調査を実施する。 初回の授業において、具体的な実施日を知らせる。 第6～14回:「調査データの分析・報告書の執筆」 ・文献講読 ・調査データの地図化・表化作業 ・報告書の執筆 第15回:「まとめ」 ・報告書の刊行			
【自学自習】 ・この授業では、自学自習の時間をとることが不可欠となる。授業外の時間もつかって、文献の収集・講読、図表の作成、原稿の執筆などに努めること。作成された原稿については、その都度添削して返却する。なお、授業外の学習時間の目安は、1週間あたり90分以上である。 ・報告書の執筆・刊行に際しては、1人あたり1,500字程度の原稿を最低5回程度提出してもらおう。 ・授業では香川県内の地域を対象とする予定だが、特定の地域の特性(地域性)を理解するためには、その他の地域との比較やより大きな地理的スケール(中国・四国地域、日本、世界)のなかで当該地域を位置づけることも重要になる。このため、新聞、テレビ、インターネットなどで、国内外の様々な国や地域のニュースに目を通すこと。			

教科書・参考書等

教科書：特に指定しない。

参考書：梶田真・仁平尊明・加藤政洋編著（2007）『地域調査ことはじめ-あるく・みる・かく-』ナカニシヤ出版.
2,800円+税.

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00（教員研究室：経済学部3号館3階）

※そのほか、事前に連絡をもらえれば、出来る限り対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・この授業は、野外調査を含むため、学外の一般の方々とも交流が生まれます。したがって、他の授業以上に一般的な社会常識やマナーが求められます。社会常識やマナーを守れる方にのみ、受講を勧めます。
- ・報告書の執筆に際して、1,500字程度の原稿を5回前後提出してもらいます。正しい文章表現を身につけたいという意欲のある方を歓迎します。
- ・調査の実施日や担当グループなどを決めるため、初回の授業には必ず出席してください。
- ・野外調査などで発生する費用は、基本的には、参加者の自己負担となります。
- ・各自、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入してください。